



DIGITAL HEARTS HDGS.



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月11日

上場会社名 株式会社デジタルハーツホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3676 URL https://www.digitalhearts-hd.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 CEO (氏名)玉塚 元一
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 CFO (氏名)筑紫 敏矢 (TEL)03(3373)0081
 四半期報告書提出予定日 2019年11月12日 配当支払開始予定日 2019年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	10,222	9.5	518	△33.3	513	△32.0	277	△45.4
2019年3月期第2四半期	9,333	13.0	777	△22.5	754	△25.2	508	△24.6

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 264百万円(△72.7%) 2019年3月期第2四半期 971百万円(49.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	12.68	12.44
2019年3月期第2四半期	23.32	22.47

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	10,827	5,522	46.7
2019年3月期	9,832	5,012	48.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 5,056百万円 2019年3月期 4,791百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
2020年3月期	—	7.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	19.5	1,800	12.1	1,830	10.8	1,250	△20.7	57.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 2社 (社名) LOGIGEAR CORPORATION、LOGIGEAR VIETNAM CO., LTD.、除外 1社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期2Q	23,890,800株	2019年3月期	23,890,800株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	1,885,984株	2019年3月期	2,016,206株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期2Q	21,902,346株	2019年3月期2Q	21,813,349株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)の5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(企業結合等関係)	12
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	2019年3月期 第2四半期 (千円)	2020年3月期 第2四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	9,333,656	10,222,467	9.5
営業利益	777,640	518,427	△33.3
経常利益	754,757	513,565	△32.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	508,781	277,694	△45.4

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、インターネット環境の飛躍的な進展やスマートデバイスの普及拡大等を背景に、コンテンツやサービスの多様化が急速に進んでいます。その一方、各企業においては、その開発及び運用を支えるIT人材が慢性的に不足していることから、ソフトウェアの開発、テスト、保守・運用等の支援サービスを提供している当社グループの収益機会、今後も引き続き拡大するものと見込んでおります。

このような状況のもと、当社グループでは、「アジアNo.1の総合テスト・ソリューションカンパニー」となることを目指し、現在「第二創業期」として、主力事業であるエンターテインメント事業のさらなる成長の追求及びエンターテインメント事業に続く第二の収益の柱を育てるべくエンタープライズ事業の拡大に注力しております。特に当第2四半期連結累計期間は、今後の事業拡大に向けた先行投資期間と位置付け、エンターテインメント事業においては、テストセンターであるLab.を函館に新設するとともに、札幌Lab.を移転し従来の約3倍の規模へと増床するなど、今後の需要拡大を見据えた受注体制の強化を図って参りました。また、エンタープライズ事業においては、テストエンジニアを中心とする専門人材の確保・育成や、テスト自動化に関する高い技術力及び豊富な実績を持つ企業の子会社化など、強固な事業基盤の構築に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、主力のデバッグ・システムテストサービスが好調に推移し、エンターテインメント事業、エンタープライズ事業ともに増収を達成し、10,222,467千円(前年同四半期比9.5%増)となりました。一方、利益につきましては、積極的な先行投資を行った影響等により、営業利益は518,427千円(前年同四半期比33.3%減)、経常利益は513,565千円(前年同四半期比32.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は277,694千円(前年同四半期比45.4%減)となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

	2019年3月期 第2四半期 (千円)	2020年3月期 第2四半期 (千円)	増減率 (%)
売上高	9,333,656	10,222,467	9.5
エンターテインメント事業	7,874,403	8,127,807	3.2
エンタープライズ事業	1,459,350	2,094,660	43.5
調整額	△97	—	—
営業利益又は営業損失	777,640	518,427	△33.3
エンターテインメント事業	1,511,692	1,487,764	△1.6
エンタープライズ事業	△119,624	△181,957	—
調整額	△614,427	△787,379	—

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益又は損失は営業利益ベースとなっております。

① エンターテインメント事業

当セグメントでは、主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、アミューズメント機器のデバッグ、ゲームの受託開発、プロモーション活動支援等のサービスを提供しております。

エンターテインメント事業におけるサービス別の売上高は以下のとおりであります。

	2019年3月期 第2四半期 (千円)	2020年3月期 第2四半期 (千円)	増減率 (%)
デバッグ	6,393,030	6,925,015	8.3
クリエイティブ	1,073,291	657,934	△38.7
メディア及びその他	408,081	544,857	33.5
エンターテインメント事業 合計	7,874,403	8,127,807	3.2

(i) デバッグ

デバッグサービスでは、主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、アミューズメント機器を対象に、ソフトウェアの不具合をユーザー目線で検出し顧客企業に報告するデバッグサービスや翻訳・ローカライズサービス等を提供しております。

当第2四半期連結累計期間は、コンソールゲーム向けのサービスにおいて、積極的な営業活動やサービス品質の向上・改善に向けた継続的な取り組みが奏功し、年末商戦期に発売予定の人気タイトルを多数獲得するなど、好調に推移致しました。また、厳しい市場環境が続いていたアミューズメント機器業界においては、顧客企業における新台開発が徐々に活発化しており、これらの新台開発に係るデバッグニーズを確実に取り込むことで、大幅な増収を達成致しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグサービスの売上高は6,925,015千円(前年同四半期比8.3%増)と大幅増収を達成致しました。

(ii) クリエイティブ

クリエイティブサービスでは、ゲーム開発や2D/3Dグラフィック制作等、コンテンツ制作におけるクリエイティブ領域全般にわたる制作サポートサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間は、新規案件獲得に向けた積極的な営業活動に注力したものの、顧客企業におけるモバイルゲームの新規タイトル開発数が大幅に減少したことにより、当社グループの受託開発案件も減少致しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のクリエイティブサービスの売上高は657,934千円(前年同四半期比38.7%減)となりました。

(iii) メディア及びその他

メディア及びその他のサービスでは、日本最大級の総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」等の運営やカスタマーサポートサービス等を提供しております。

当第2四半期連結累計期間は、主に「4Gamer.net」において、独自取材による付加価値の高い情報のスピーディな配信に努め、メディアとしての価値の向上を図って参りました。また、カスタマーサポートサービスでは、順調に案件を獲得し好調に推移致しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のメディア及びその他サービスの売上高は544,857千円(前年同四半期比33.5%増)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のエンターテインメント事業の売上高は、8,127,807千円(前年同四半期比3.2%増)となりました。一方セグメント利益は、クリエイティブサービスの減収の影響を受け、1,487,764千円(前年同四半期比1.6%減)となりました。

② エンタープライズ事業

当セグメントでは、主に、エンタープライズシステムを対象とするシステムテスト及び受託開発サービスや、ヘルプデスクをはじめとするITサポート、セキュリティ等のサービスを提供しております。

エンタープライズ事業におけるサービス別の売上高は以下のとおりであります。

	2019年3月期 第2四半期 (千円)	2020年3月期 第2四半期 (千円)	増減率 (%)
システムテスト	545,865	1,001,147	83.4
ITサービス・セキュリティ	913,484	1,093,513	19.7
エンタープライズ事業 合計	1,459,350	2,094,660	43.5

(i) システムテスト

システムテストサービスでは、主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間は、新規案件の獲得に必要不可欠であるテストエンジニアの確保・育成を目的とする積極的な人材投資を継続し、受注体制を強化するとともに、当期から新設した「統合コントロールセンター」において、テストエンジニアの稼働状況やプロジェクト進捗管理等を徹底することで、効率的な業務運営に努めて参りました。

また、2019年8月1日付けでM&Aにより、テスト自動化に関する高い技術力や豊富な実績を有する米国のLOGIGEAR CORPORATION及びその子会社をグループ化し、テスト自動化が浸透していない日本市場開拓に向け、営業体制やグループを横断したサービス提供体制の構築等を進めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のシステムテストサービスの売上高は1,001,147千円(前年同四半期比83.4%増)と大幅な増収を達成致しました。

(ii) ITサービス・セキュリティ

ITサービス・セキュリティサービスでは、システムの受託開発やITサポート、セキュリティ等のサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間は、システムの受託開発サービスが好調に推移するとともに、セキュリティサービスにおいて、協業先である米国Synack社と共同で提供しているペネトレーションテストサービスの新規案件獲得が進みました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のITサービス・セキュリティサービスの売上高は1,093,513千円(前年同四半期比19.7%増)と好調に推移致しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のエンタープライズ事業の売上高は、2,094,660千円(前年同四半期比43.5%増)と大幅な増収を達成致しました。一方利益においては、当第2四半期連結会計期間に「第二創業期」として初の黒字化を実現した一方、当第1四半期連結会計期間に実施した専門人材をはじめとする積極的な投資の影響により、当第2四半期連結累計期間のセグメント損失は181,957千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産の残高は7,574,516千円となり、前連結会計年度末における流動資産7,403,762千円に対し、170,753千円の増加(前期比2.3%増)となりました。

これは、主として受取手形及び売掛金が293,423千円、有価証券が162,010千円増加し、現金及び預金が347,874千円減少したことによるものであります。

固定資産の残高は3,252,621千円となり、前連結会計年度末における固定資産2,428,568千円に対し、824,053千円の増加(前期比33.9%増)となりました。

これは、主としてのれんが585,691千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は4,679,908千円となり、前連結会計年度末における流動負債4,192,428千円に対し、487,479千円の増加(前期比11.6%増)となりました。

固定負債の残高は624,446千円となり、前連結会計年度末における固定負債627,235千円に対し、2,789千円の減少(前期比0.4%減)となりました。

(純資産)

純資産の残高は5,522,783千円となり、前連結会計年度末における純資産5,012,666千円に対し、510,117千円の増加(前期比10.2%増)となりました。

これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が277,694千円、自己株式を処分したことにより純資産139,858千円が増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、3,814,741千円となり、前連結会計年度末における資金3,732,381千円に対し、82,360千円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は5,813千円(前年同四半期は315,494千円の収入)となりました。

これは、主として税金等調整前四半期純利益513,565千円等の資金増加項目を、法人税等の支払額514,751千円等の資金減少項目が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は963,875千円(前年同四半期は449,629千円の支出)となりました。

これは、主として子会社株式の取得による支出597,799千円及び事業譲受による支出64,997千円等の資金減少項目によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は637,031千円(前年同四半期は40,081千円の支出)となりました。

これは、主として短期借入金800,000千円等の資金増加項目によるものであります。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、概ね計画どおり推移しており、現時点において2019年5月10日付けで「2019年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表しました業績予想からの変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,197,616	3,849,741
受取手形及び売掛金	2,724,434	3,017,858
たな卸資産	20,814	48,066
有価証券	—	162,010
その他	492,804	537,895
貸倒引当金	△31,907	△41,056
流動資産合計	7,403,762	7,574,516
固定資産		
有形固定資産	558,027	646,422
無形固定資産		
のれん	481,218	1,066,909
その他	282,161	337,098
無形固定資産合計	763,380	1,404,008
投資その他の資産		
投資有価証券	190,868	186,908
その他	928,165	1,027,034
貸倒引当金	△11,873	△11,752
投資その他の資産合計	1,107,160	1,202,191
固定資産合計	2,428,568	3,252,621
資産合計	9,832,330	10,827,137
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,704,882	2,504,703
未払費用	907,311	972,966
未払法人税等	593,491	297,112
賞与引当金	86,272	69,760
その他	900,470	835,366
流動負債合計	4,192,428	4,679,908
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	508,600	508,600
長期借入金	50,960	46,847
退職給付に係る負債	36,397	38,388
その他	31,278	30,609
固定負債合計	627,235	624,446
負債合計	4,819,664	5,304,354

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,686	300,686
資本剰余金	366,598	357,135
利益剰余金	6,408,407	6,543,917
自己株式	△2,311,908	△2,162,588
株主資本合計	4,763,783	5,039,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	323	806
為替換算調整勘定	27,839	16,637
その他の包括利益累計額合計	28,162	17,444
新株予約権	13,363	13,363
非支配株主持分	207,356	452,824
純資産合計	5,012,666	5,522,783
負債純資産合計	9,832,330	10,827,137

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	9,333,656	10,222,467
売上原価	6,680,661	7,603,085
売上総利益	2,652,995	2,619,381
販売費及び一般管理費	1,875,355	2,100,954
営業利益	777,640	518,427
営業外収益		
受取利息	38	266
投資事業組合運用益	1,335	337
助成金収入	18,996	—
還付消費税等	—	1,314
その他	1,518	3,478
営業外収益合計	21,888	5,396
営業外費用		
支払利息	1,372	2,461
持分法による投資損失	4,127	3,303
為替差損	1,620	4,001
支払手数料	12,899	99
和解金	24,041	—
その他	709	392
営業外費用合計	44,771	10,258
経常利益	754,757	513,565
特別利益		
投資有価証券売却益	30,634	—
特別利益合計	30,634	—
特別損失		
事務所移転費用	8,492	—
事業撤退損	42,767	—
特別損失合計	51,259	—
税金等調整前四半期純利益	734,133	513,565
法人税、住民税及び事業税	253,921	236,519
法人税等調整額	△24,909	1,319
法人税等合計	229,011	237,839
四半期純利益	505,121	275,726
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,660	△1,968
親会社株主に帰属する四半期純利益	508,781	277,694

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	505,121	275,726
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	464,024	483
為替換算調整勘定	2,683	△11,370
その他の包括利益合計	466,708	△10,887
四半期包括利益	971,829	264,839
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	975,654	266,976
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,825	△2,137

(2) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	734,133	513,565
減価償却費	64,685	80,792
のれん償却額	50,864	88,441
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,773	752
賞与引当金の増減額(△は減少)	34,984	△16,512
受取利息及び受取配当金	△38	△266
事務所移転費用	8,492	—
事業撤退損	42,767	—
株式報酬費用	69,198	66,963
支払利息	1,372	2,461
為替差損益(△は益)	394	114
持分法による投資損益(△は益)	4,127	3,303
投資事業組合運用損益(△は益)	△1,335	△337
売上債権の増減額(△は増加)	10,843	△32,753
たな卸資産の増減額(△は増加)	△17,440	△27,298
投資有価証券売却損益(△は益)	△30,634	—
和解金	24,041	—
未払金の増減額(△は減少)	△190,961	10,522
未払費用の増減額(△は減少)	△222,221	△125,694
未払消費税等の増減額(△は減少)	△21,068	△41,111
その他の流動資産の増減額(△は増加)	8,653	△21,932
その他の流動負債の増減額(△は減少)	15,206	△6,675
その他	△19,400	△11,186
小計	569,438	483,147
利息及び配当金の受取額	38	266
利息の支払額	△1,372	△2,367
法人税等の支払額	△243,769	△514,751
法人税等の還付額	8,361	27,892
事務所移転費用の支払額	△8,492	—
事業撤退損の支払額	△8,709	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	315,494	△5,813
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△36,816	△129,693
無形固定資産の取得による支出	△81,680	△78,696
投資有価証券の売却による収入	30,634	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△309,972	△597,799
事業譲受による支出	△96,887	△64,997
投資事業組合からの分配による収入	11,880	1,570
敷金及び保証金の差入による支出	△10,097	△96,232
敷金及び保証金の回収による収入	43,290	2,867
その他	19	△895
投資活動によるキャッシュ・フロー	△449,629	△963,875

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,200,000	800,000
短期借入金の返済による支出	△1,100,000	—
配当金の支払額	△131,692	△142,079
非支配株主への配当金の支払額	△20,034	△20,034
非支配株主への清算分配金の支払額	△1,919	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	1,400	—
リース債務の返済による支出	△1,199	△854
新株予約権の発行による収入	13,363	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40,081	637,031
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,246	△15,217
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△171,970	△347,874
現金及び現金同等物の期首残高	3,894,356	4,162,616
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	9,994	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,732,381	3,814,741

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2019年7月26日開催の取締役会において、当社の取締役等に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式を130,222株処分を行うことを決議し、実施致しました。自己株式が149,320千円減少し、資本剰余金が9,462千円減少しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の残高は、資本剰余金357,135千円、自己株式2,162,588千円となっております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 LOGIGEAR CORPORATION

事業の内容 システムテスト事業、テスト自動化支援、システム開発事業等

② 企業結合を行った主な理由

被取得企業が有する独自のテスト自動化ツール及びベトナムにおける豊富なテストエンジニアを確保し、システムテスト事業の非連続な成長を実現するため。

③ 企業結合日

2019年8月1日（みなし取得日2019年9月30日）

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得及び第三者割当増資の引き受けによる株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権の比率

51%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年9月30日をみなし取得日としているため、当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	886,344千円
取得原価		886,344千円

(4) 主要な取得関連費用の主な内訳及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等	82,842千円
-------------------	----------

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれん金額

607,771千円

なお、のれん金額は、当第2四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

② 発生原因

主として今後の事業展開により期待される超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

効果の発現する期間にわたって均等償却いたします。なお、償却期間については取得原価の配分の結果を踏まえて決定する予定であります。

(重要な後発事象)

(合弁会社の設立)

当社は、2019年11月11日開催の取締役会において、株式会社ラックと合弁会社を設立することを決議致しました。

1. 合弁会社設立の目的

ホワイトハッカーサービス等高度セキュリティ事業のさらなる強化のため

2. 合弁会社の概要

- | | |
|----------|------------------------|
| (1) 名称 | 株式会社レッドチーム・テクノロジーズ |
| (2) 所在地 | 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号 |
| (3) 事業内容 | ホワイトハッカーサービスの提供及び技術支援等 |
| (4) 資本金 | 80百万円(資本準備金40百万円を含む) |
| (5) 設立時期 | 2019年11月(予定) |
| (6) 出資比率 | 当社60%、株式会社ラック40% |

(自己株式の取得)

当社は、2019年11月11日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について以下のとおり決議致しました。

1. 自己株式の取得を行う理由

今後の事業展開に応じた機動的な資本政策を遂行するとともに、株主還元及び資本効率向上のため自己株式を取得するものであります。

2. 取得の内容

- | | |
|----------------|--|
| (1) 取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得し得る株式の総数 | 70万株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合3.18%) |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 5億円(上限) |
| (4) 取得期間 | 2019年11月12日から2020年2月6日まで |
| (5) 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付 |